

コリント
第一
⑤

「主の懲らしめと
永遠の愛」

コリント人への手紙 I 5章 罪に対する懲戒

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 下されていた罪の裁定 5章1～5節
- II. パン種の警告 5章6～8節
- III. 内部こそ裁くべき 5章9～12節
- IV. まとめと適用

懲戒が生み出す結果を知ろう

コリントの海岸

コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中。
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ。
この後、コリントを再訪。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。



海を挟んで約250km
陸路を廻れば約1,000km

【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- かつては海洋民族フェニキヤが支配。
アシュタロテ礼拝が根付く(ペリシテも)。
神殿娼婦の存在も。偶像崇拝が蔓延。



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

序文		1:1～9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10～4:21
	②罪に対する懲戒	5:1～13
	③裁判の問題	6:1～8
	④性的放縦の問題	6:9～20
質疑応答	①結婚	7:1～40
	②偶像に捧げた肉	8:1～11:1
	③礼拝における秩序	11:2～34
	④聖霊の賜物	12:1～14:40
	⑤復活	15:1～58
	⑥献金	16:1～12
あいさつ		16:13～24



【教会内の分裂に対する叱責】 コリント1~4章

- コリントの教会は、分裂し、対立していた。
- ただ十字架のキリストに立ち返れとパウロは告げ、信仰による救い・義認と、信仰者の成長・聖化の原則を思い起こさせる。
- ただ主に従い、永遠の主の報酬のみを求めよと。
- 主が語り、聖書に記されたことを越えてはならない。迫害と餓えと中傷の中で、なお主にのみ希望を置き、パウロは、主の御言葉を語り続ける。



1 コリント4:18～20

あなたがたのところに私が行くことはないだろうと考えて、
思い上がっている人たちがいます。

しかし、主のみこころであれば、すぐにでもあなたがたの
ところに行きます。そして、思い上がっている人たちの、こと
ばではなく力を見せてもらいましょう。神の国は、ことばで
はなく力にあるのです。

Ⅰ コリント4:18～20

あなたがたはどちらを望みますか。私があなたがたのところに、むちを持って行くことですか。それとも、愛をもって柔和な心で行くことですか。



I. 下されていた罪の裁定

I コリント5章1～5節

アクロコリント

【罪の指摘】 1コリント5:1

現に聞くところによれば、あなたがたの間には淫らな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどの淫らな行いで、父の妻を妻にしている*者がいるとのことです。

*ギリシャ文化では複数の妻、愛人は当然だった。

➡“父の妻だった一人を息子が妻とした。”

■父ヤコブの側女ビルハと寝たルベン(創35:22)

父ダビデの側女と寝たアブサロム(IIサム16:22)

➡ルベンは長子権を喪失。アブサロムは死んだ。



【思い上がり】 1コリント5:2

それなのに、あなたがたは思い上がっています。むしろ、悲しんで、そのような行いをしている者を、自分たちの中から取り除くべきではなかったのですか。

■ギリシャ的価値観の悪影響。

→魂は肉体より高貴で、肉体の影響を受けない。

■キリスト者の自由のはき違え。

→救われた私は、罪から完全に自由だ。

→自由な魂が誰を愛そうとも自由だ。

→父の妻を愛するのは、自由な信仰の証しだ。



コリント遺跡

【すでに下された裁定】 1コリント5:3

私は、からだは離れていても霊においてはそこにいて、実際にそこにいる者のように、そのような行いをした者をすでにさばきました。

＊下された裁定は正当な権威によると強調するパウロ。

■ パウロは裁定を下し、すでに通知していた。

➔ 人々は、遠方からの裁定を軽んじたのだろう。

■ 遠方からの裁定でも、現地の裁きと効力は変わらない。

➔ パウロは、聖霊に従い、使徒の権威によって裁いた。



【靈的視点からの裁き】 1コリント5:4~5

すなわち、あなたがたと、私の靈が、私たちの主イエスの名によって、しかも私たちの主イエスの御力とともに集まり、そのような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡した*のです。それによって彼の靈が主の日に救われるため*です。

■靈的視点から説明される、信仰者の裁きの実態。

*信仰者への最大の裁きが、サタンによる肉体の死。

例) アナニヤとサツピラの死(使徒5章)

*サタンに引き渡され、肉体が滅んだとしても、救いは失っていない。永遠の滅びは免れる。



【聖書の記す懲戒の段階】

①個人的に話す。(マタ18:15～20)



②証人の同席のもとに話す。(ガラ8:1)



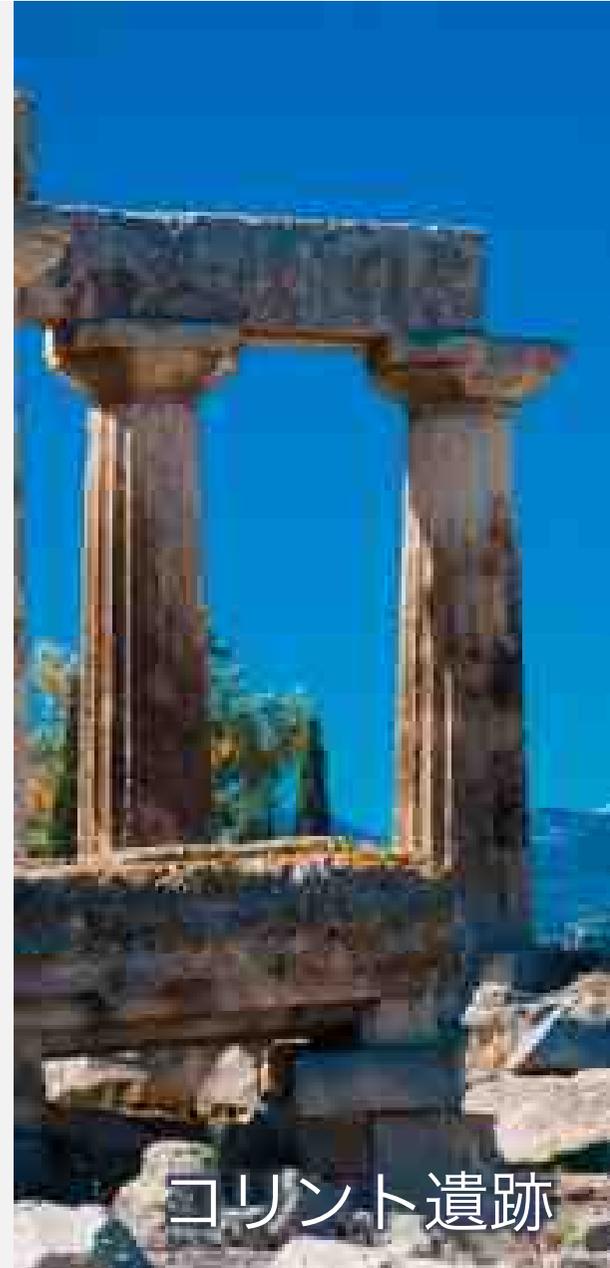
③会衆の前に事実を明らかにし、悔い改めを迫る。



④**除名処分**にする。(1コリ5:1～5)

→教会の交わり、霊的守りから外す。

すでに最終段階の裁定がなされた後の状態!!



コリント遺跡



Ⅱ. パン種の警告 **Iコリント5章6～8節**

【教会への警告】 1コリント5:6

あなたがたが誇っているのは、良くないことです。わずかなパン種*が、こねた粉全体をふくらませることを、あなたがたは知らないのですか。

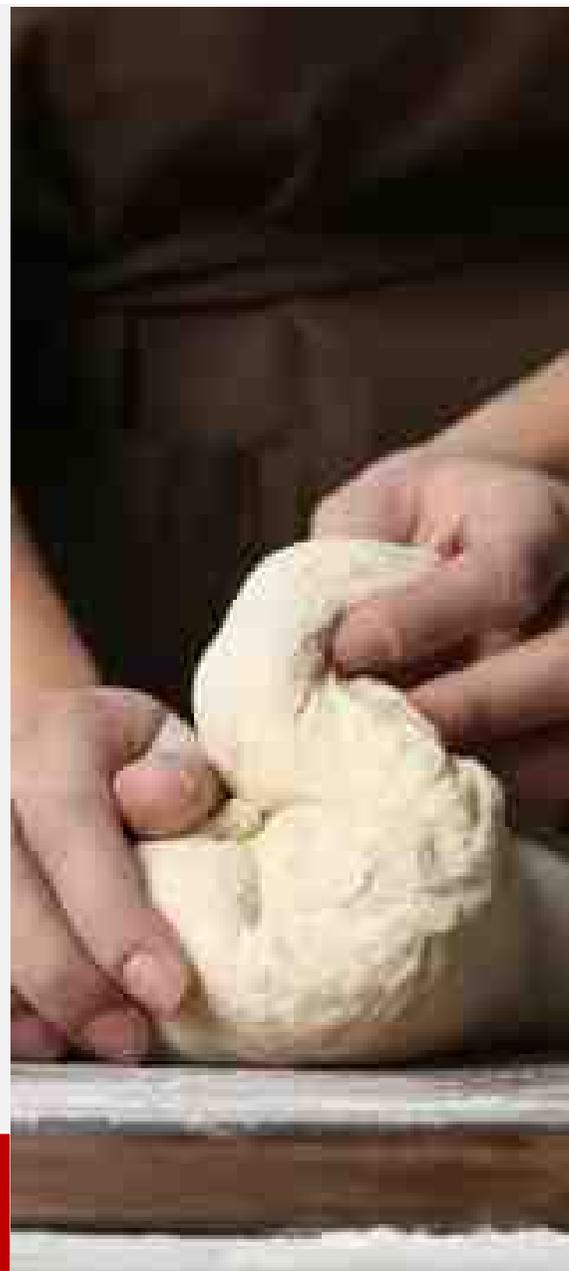
*律法では、パン種は**罪**の象徴。

→イエスのパン種のたとえでは、**偽りの教え**。

マタ 13:33 「天の御国は**パン種**に似ています。女の人がそれを取って三サトンの小麦粉の中に混ぜると、全体がふくらみます。」

→地上の御国・教会は、**偽りの教え**に侵される。

コリントは主イエスの警告した危機に直面!!



【罪なきキリストの贖い】 1コリント5:7~8

新しいこねた粉のままですら、古いパン種をすっかり取り除きなさい。あなたがたは**種なしパン**なのですから。私たちの**過越の子羊キリスト**は、すでに屠られたのです。

マタ26:26 また、一同が食事をしているとき、イエスは**パン**を取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。**これ**はわたしのからだです。」

■**罪なきキリスト**が十字架の贖いを成し遂げた。
信じた者は、罪をきよめられた。



【信仰者が祝うべき真実の祭り】 | コリント5:8

ですから、古いパン種を用いたり、悪意と邪悪のパン種を用いたりしないで、誠実と真実の種なしパンで**祭り***をしようではありませんか。

＊**過越祭**(除酵祭)。

■**過越祭**は、メシアの贖いの予型だった。

十字架の贖いが成し遂げられた今、

信仰者がなすべきは、罪ゆるされた者として

聖霊の導きに従い、きよめられつつ歩むこと。





Ⅲ. 内部こそ裁くべき Iコリント5章9～12節

コリント・会堂跡

【繰り返されていた警告】 | コリント5:9~10

私は前の手紙*で、淫らな行いをする者たちと付き合いがないように*と書きました。

それは、この世の淫らな者、貪欲な者、奪い取る者、偶像を拝む者と、いっさい付き合いがないようにという意味ではありません。そうだとしたら、この世から出て行かなければならないでしょう。

*これ以前も、コリントと手紙のやりとりがされていた。

*この命令に強く反発する人が大勢いたと分かる。

➡「生きていけないじゃないか」 不信仰な反論の典型

しかし、私たちは完全に主に生かされている。



【兄弟姉妹の悪】 1 コリント5:11

私が今書いたのは、兄弟と呼ばれる者で、淫らな者、貪欲な者、偶像を拝む者、人をそしる者、酒におぼれる者、奪い取る者*がいたなら、そのような者とは付き合っはいけない、一緒に食事をしてはいけない、ということです。

*これがコリントの現実。

- 世の現実のただ中に教会はあるが、世の現実には呑まれてはならない。
- 悪にまみれた兄弟姉妹との関係は、断たなければならない。



【内部こそさばくべき】 1コリント5:12

外部の人たちをさばくことは、私がすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。

- 新約聖書には、奨励よりも**戒め**の方が多い。
圧倒的に多いのは、**偽りの教えへの裁き**の言葉。
- 教会には常に厳しい自己吟味が求められる。
特に、偽の教えに対しては厳格に対処すべき。
「愛」でうやむやに → カルト的教会が生じる。



裁くべきを裁かず、裁くべきことを放置していないか？

【外は委ね、内を裁け】 | コリント5:13

外部の人たちは神がおさばきになります。「あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。」

- 世にあふれる罪を教会が糾弾しても仕方ない。
→ 世の現実の主の再臨まで変わらない。
- 教会と信仰者がなすべきは、常に自己吟味。
自分たちの中の、自分の中の悪とは何か？
- 教会内には絶えず深刻な罪の問題が発生する。
しかるべき手順を踏んでなお悔い改めない場合、
教会から出て行ってもらうしかない。





IV. まとめと適用

懲戒が生み出す結果を知ろう

アクロコリントからの景色

懲戒がもたらす結果

- ① 教会の腐敗の進展を防ぐ
- ② 神への畏怖の念を与え、罪を犯させないようにする。
- ③ 健全な教理を保つ。
- ④ 裁きを通して、主の愛と恵みを味わわされる。

懲戒の結果① 教会の腐敗の進展を防ぐ

エペソ人への手紙5:26~27

キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、**教会をきよめて聖なるものとするため**であり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった**栄光の教会を、ご自分の前に立たせるため**です。

(キリストに倣い、夫は妻を愛し、妻は夫に従えという命令に続いて)

■地上の教会全体が、聖化の過程を歩んでいる。

罪から離れ、きよめられていく過程が、私たちの今。

➡完全にきよめられた、将来の栄光の教会が約束されたゴール。

懲戒の結果② 畏怖の念による罪の抑制

ガラテヤ人への手紙6:1

兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、**柔和な心でその人を正してあげなさい**。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。

テモテへの手紙一5:20

罪を犯している者を**すべての人の前で責めなさい**。そうすれば、ほかの人たちも恐れを抱くでしょう。

懲戒の結果③ 健全な教理を保つ

テトスへの手紙1:12～13

クレタ人のうちの一人、彼ら自身の預言者が言いました。

「クレタ人はいつも嘘つき、悪い獣、怠け者の大食漢。」

この証言は本当です。ですから、**彼らを厳しく戒めて、その信仰を健全にし、ユダヤ人の作り話や、真理に背を向けている人たちの戒めに、心を奪われないようにさせなさい。」**

■世は、神の教え、聖書を激しく非難する。

対抗して真理に堅く立つために、教会内を厳しく戒める必要がある。

懲戒の結果④ 神の愛と恵みを味わう

■ 厳しい対応の中で、神の愛と恵みを味わうことに導かれる。

私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらにあなたがたに手紙を書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、私
があなたがたに対して抱いている、あふれるばかりの愛を、あなたがたに知ってもらうためでした。コリント人への手紙二2:4

■ おそらく、1コリ5章で裁かれた当事者は悔い改めて立ち返った。

コリントの人々も、パウロも、主の御前で彼をゆるした。

**信仰者が罪を犯せば、確実な主の懲らしめがあるが、
悔い改めるなら、罪ゆるされて、主の愛が味わい知らされる**

II コリント5:4~7

確かにこの幕屋(肉体)のうちにいる間、私たちは重荷を負ってうめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいからではありません。死ぬはずのものが、いのちによって呑み込まれるために、**天からの住まい**を上に着たいからです。

そうなるのにふさわしく私たちを整えてくださったのは、神です。神はその保証として**御霊**を下さいました。

ですから、私たちはいつも心強いのです。ただし、肉体を住まいとしている間は、私たちは主から離れているということも知っています。

私たちは見えるものによらず、**信仰**によって歩んでいます。

肉体をもって歩む限り、信じて救われてもなお、わたしたちは罪を犯す。

しかし、その私たちの保証として聖霊が与えられている。私たちは決して見捨てられることはない。

信仰者が罪を犯せば、着実に懲らしめが裁きが与えられる

しかし、主の懲らしめは、主があなたを確かに愛されていることのゆるぎない証拠に他ならない。

永遠の主に信頼して、犯した罪を悔い改め、御霊に導かれ、主の愛を味わい尽くして歩んでいこう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

信じてなお罪をおかす、おろかなわたしを、主はこらしめられます。

悔い改めて、あなたのゆるしを得ることができますように。

主よ。あなたの愛を、さらに深く味わわせてください。

決して消えることのない、聖霊による救いの証印が、この身に

きざまれていますから、ただ主に信頼し、歩む者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」



バイブルスタディ

★次回予告：2021年10月26日(火) 午前10時より

「コリント人への手紙第一 6章」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時10分くらいから、分かち合いの時間を持ちます。

★今後の予定：11/9(火)、11/23(火)、